様式1 平成30年度　山梨県立中央高等学校・定時制　評価報告書（自己評価・学校関係者評価）

学校目標・経営方針	自尊感情を高め、社会の中で自立する生徒を育てる。

山梨県立中央高等学校校長　川手　正昭

本年度の重点目標	
	1　自ら進んで学習に取り組む意欲を高め、確かな学力を育成する
	2　CHUOハーモニックプランに基づき、社会において自立できる力を育てる
	3　自主的に健康で安全な生活を送ることのできる実践力を育てる

達成度	
A	ほぼ達成できた。（8割以上）
B	概ね達成できた。（6割以上）
C	不十分である。（4割以上）
D	達成できなかった。（4割以下）

評価	
4	良くできている。
3	できている。
2	あまりできていない。
1	できていない。

自己評価							学校関係者評価	
	本年度の重点目標			年度末評価（平成31年2月14日現在）			実施日　（平成31年2月14日）	
番号	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	自己評価結果	達成度	成果と次年度への課題・改善策	評価	意見・要望等
1	自ら進んで学習に取り組む意欲を高め、確かな学力を育成する	学習意欲を高める教材や自己の在り方生き方についての考察を深める教材の工夫 アクティブ・ラーニング法による授業実践と相互授業観察による授業力向上（研究授業参観を含め計3回以上） 三部制に対応した教育課程の編成 主体的な学びを定着させるための、個別課外の実施や学習室の設置等、学習環境の整備	定通研レポート 振り返りシート 授業アンケート 指導案 授業観察記録表 授業アンケート 教育課程の編成 計画的実施状況	・教員は「学習意欲やあり方生き方を深める教材への工夫ができている」が96%と評価しているが、生徒は「教材が工夫されている」が68%と2番目に低い評価となった。また、生徒の「在り方生き方を考える」については79%の評価となった。 ・年間3回以上の相互事業観察は82%の教員が達成し、達成できなかった教員も2回は行った。ただ、「アクティブラーニング法の実践について」の評価は78%と教員の回答の中では最低であった。 ・教員の「生徒の特性に応じた教育課程」と「シラバス」についての評価はともに93%と高いが、記述意見の中には三部制の弊害を訴える記述もあった。 ・平成27年度から学習室が設置され、個別に学習に対するハード面はあるが、利用する生徒が少数ではあることは否めない。ただ、教員の「個別指導を行っている」は87%の評価を得ており、今年度から始まった通級指導も含めて手厚い個別指導を行っている。	B	・教員としても最重要課題として捉えなければならないのが授業改革である。相互授業観察や様々な研修で、授業力の向上に取り組んでいるとは思うが、生徒の3割以上が授業に不満を感じているという結果を見ると、まだ道半ばと推測できる。相互授業観察や研修などを義務だから仕方なく行うのではなく、自己研鑽の為、積極的に取り組む必要がある。良い意味で生徒の意見を授業に取り入れた、わかりやすい授業づくりを行い、生徒が主体的・対話的で深い学びを行えるよう、取り組んでいく。 ・新学習指導要領の完全実施に向け、多様な生徒の進路実現に対応できる教育課程という視点から、再度教育課程の検討を行う。また、三部制のあり方についても同時期を目処に結論を出していく必要がある。 ・個別指導は実施されているが、個別課外までは三部制で時間的余裕がないため、ほとんど実施されていない現状である。三部制のあり方にも絡めて課外の検討も必要であろう。また、学習室のあり方も検討したい。	3	・過去の定時制の生徒は職場が生活の主であり、学校はその次であった。仕事の時間が生活のほとんどであるので、学習時間が取れなかったり、学習意欲が乏しい生徒が多かった。最近は仕事を持たなかったりアルバイト程度で時間に余裕がある生徒が多くなっている。そのような生徒に、学習意欲を持たせることが今の中央高校の課題であろう。生徒に今後の人生をいかに生きるかを考えさせ、そのためには今何をしなければならないかを理解させることが大切である。また、学習意欲を向上させるためには、教材や教科指導の研究も必要である。 ・学習意欲を高める教材の創意工夫や教職員の資質向上のため、様々な研修に積極的に参加し、分かりやすい授業作りに取り組んでもらいたい。生徒が魅力を感じるような授業を行うためには、多角的な見方や発想が必要だと思います。また、自主的な学習を行うために、学習室の活用が活発になるような工夫も必要だと感じました。 ・多様な生徒がいることが実感できました。先生方の力に期待します。 ・社会で自立できる生徒の育成をお願いします。
2	CHUOハーモニックプランに基づき、生徒の社会において自立できる力を育てる	分掌や年次によるハーモニックプランの実践 入学から卒業までの系統的なキャリア教育の充実 生徒の状況に即した総合的な学習の時間の計画的運営 SSTや通級指導等の実践による、豊かな心の育成と社会性の育成	課題別評価表、自己観察書などでの計画実施状況 LHR・総合・行事などの計画実施状況 計画的実施状況 SST指導の状況 通級指導の状況 アンケート調査	・教員の「ハーモニックプランの実践」は84%が評価しているが、生徒の「自己肯定感」は67%と最低の評価であった。実践はされているが、3割の生徒にはまだ不十分であるといった結果であろう。 ・「進路行事や情報提供の充実」は教員93%、生徒89%、保護者86%と良い評価を得ている。 ・教員の「総合的な学習の時間」に対する評価は87%と高いが、企画振興部への依存が大きいといった面もある。ただ、年次との連携もできており、全体の先生方で充実した教育活動を展開することができた。 ・SSTや通級指導は生徒に取って必要な指導となっているが、教育相談部を中心とした実践が中心で、学校全体に浸透しきっているとは言いがたい。教育相談部で通信を出したり呼びかけもしているが、教員の多忙化もあり、全員の先生がスキルを身につけるまでには至っていない。	B	・「CHUOハーモニックプラン（生徒が自分を大切にし、社会性を身につけ、自立を目指す取り組み）」の保護者や生徒への認知度は、昨年に比べ格段に上がったが、生徒の3割が自己肯定感を持てないと回答しているのも事実である。引き続きCHUOハーモニックプランを推進し、意図的・計画的に自尊感情を高め、社会性を醸成し、自立する力を向上させる取り組みを続ける。 ・進路に関する評価は高いが、今後は発達障害などの生徒の進路開拓も課題になってくるであろう。 ・総合的な学習や学校行事を授業とも横断的に繋げ、生徒にとって深い学びとなるように、更なる改善に努めていく。併せて、保護者及び外部諸機関との連携を強化していくことも必要である。 ・本校では「通級による指導」やソーシャルスキルトレーニングも行われている教育相談の先進校である。教員としてのカウンセリングマインドを学べる環境を生かし、生徒一人ひとりのニーズに応じた適切な指導を行えるよう、全員の先生方がスキルアップをして行く。	3	・生徒に、自分は今、何のために何を学びたいのかを早い時点で意識させ、目標達成のため日々の生活を充実させる事が大切である。具体的には生徒の職業観を早い段階で育成し、将来進みたい道を明らかにすることが必要である。そのためには学校見学や職場見学、あるいは体験入学・職場体験に積極的に参加させる指導が効果的である。総合的な学習の時間は良い取り組みであると思うが、生徒が自己の適性を見定め、進路を自ら決定するためには、教師のアドバイスは重要である。教師は生徒のことを良く理解し、適切なアドバイスを行えるよう研鑽を積んでもらいたい。 ・ハーモニックプランは素晴らしい取り組みだと思います。その目的・意図が十分機能し生徒に伝わるよう、生徒のニーズも取り入れながら、更に工夫・改善を図り、積極的に推進してほしいと思います。多種多様な生徒に対応するためにSSTの推進やSSW・SCとの連携を密にして下さい。また、先生方のカウンセリングマインドの更なる向上と校内・校外研修への計画的な参加により資質向上を期待します。 ・学校に訪問した際、生徒が挨拶をしてくれました。とても良いことだと思います。 ・外部講師等を上手く活用していると思います。今後も積極的に活用して下さい。
3	生徒が自主的に健康で安全な生活を送ることのできる実践力を育てる	挨拶をきっかけとした教師と生徒の信頼関係づくり 教師の対応力（生徒・保護者への対応、危機管理などの力）の向上 支援から自立、支援から外部支援と繋げる体制づくり 生徒の安全確保体制の整備	登校指導や号令時や日常の様子、アンケート調査 生徒指導・支援会議などの指導状況報告、アンケート調査 生徒指導・支援会議、進路決定状況 危機管理マニュアル 防災計画書の内容 防災教育の実施状況 （避難訓練は実践的であるか等）	・挨拶運動の効果もあり、生徒の「挨拶する雰囲気」は83%と高評価だが、「教師と生徒の信頼関係」については教員82%、生徒73%ともう一歩の評価である。 ・教員の「対応力の向上」は98%と高評価となっている。生徒及び保護者の視点に立った対応並びに臨機応変な対応や教員間の情報共有を大切にしている結果であると考えられる。 ・教員の「関係機関との連携」は96%と高評価だが、生徒の「学校に相談できる人がいる」は73%ともう一歩の評価である。 ・教員の「危機管理マニュアルの作成や訓練実施」は98%、生徒の「災害訓練」も87%と高評価である。また、避難訓練はより実践的なものに改訂して実施した。	A	・登校時、号令時や廊下でのすれ違い時などの挨拶運動は定着化されてきていると思う。今後は信頼関係が築けるよう、もう一歩踏み込んだ取り組みを展開する。 ・教員の「対応力の向上」は高評価であるが、慢心せず引き続き、生徒及び保護者の視点に立った対応を心がけたい。また、保護者アンケートで、「学校からの各種通知が届いている」の項目が76%と最も低い値となっている。日常的な保護者との意思疎通にも力を入れる必要がある。 ・外部支援に繋げる方法は確立しつつある。ただ、3割弱の生徒が学校への相談に関して敷居が高いと感じている。気軽に悩みを相談できる雰囲気作りが今後の課題である。 ・防災訓練を工夫し、より実践的なものにしたことは評価できるが、生徒がどれだけ本気で取り組んでいるかには疑問が残る。生徒の主体的かつ適切な行動力の育成を育む教育実践を推進してい。	3	・自分の身は自分で守ることを自覚させると共に、集団生活における自分の立場を考慮しながら行動できる生徒を育てることが大切である。自己中心になりがちな現代の若者であるが、社会の一員としていかに行動していくべきかを考えられる人間を、学校教育の中でいかに育てていくかを考えるべきであろう。社会人としてのマナー教育や国際人としての教育も重視してもらいたい。 ・生徒とのコミュニケーションはもちろん、保護者との連絡も密にして情報を共有しながらきめ細やかな指導をお願いします。そのためには三者間で信頼関係を構築することが必要ですので、気楽に相談できる雰囲気作りを行いつつ、粘り強い働きかけをしてほしいと思います。 ・生徒と先生がいつも一つであることを期待します。 ・社会に出れば挨拶は最も大切な事の1つです。これまで通りに、また、これまで以上に挨拶を大切にした教育を行って下さい。

留意点　（1）重点目標と評価項目については，各学校の現状と課題に基づき，実情に合わせて重点化し，設定する。
（2）学校関係者評価については，年度当初に今年度の重点目標の現状と具体的対策を説明し，評価に必要な情報提供を計画的に行う。学校関係者評価実施日とは，最終回の学校評価委員会等を開催し，学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。